

公開シンポジウム

主催：現代人間学部現代社会学科 後援：町田市教育委員会、川崎市教育委員会

“格差社会” 日本のゆくえ

家族・移民・ナショナリズムをめぐる言説から考える

日時：2007年10月13日 (土) 13:30~17:30 場所：和光大学J-301教室

=開催の要旨=

バブル経済崩壊を機に、中高年齢層のリストラや収入低下、若年層を中心にフリーターやニート、ワーキングプア（働かざる者）といった現象が表面化するなど、「総中流社会」とも称されてきた日本社会は大きな変容を見せ、人々の間には将来の生活や社会に対する不安が高まっています。このような状況を受けて、経済学や社会学の分野では「格差」の内実をめぐって盛んに議論がおこなわれています。また、急速な少子高齢化による人口減少という予測のもとに、日本社会の持続可能性を危惧する主張も現れており、その一つの対応策として「外国人労働者」の受け入れの是非をめぐっても議論されています。「格差」や「外国人労働者」受け入れをめぐる言説には、あるべき日本社会の姿に関する人々の期待や思惑、不安などが横たわっており、ここには現代日本の「ナショナリズム」も深く関わっていると考えられます。シンポジウムではこれらの言説を手がかりに、そこから読み取れる日本社会の現状と人々の意識のありようを「社会的排除」や「ナショナリズム」といった視点から考察し、「格差社会」日本のゆくえを考えていきます。

=報告=

1. 「格差論」の現在と家族・労働・福祉
岩間 暁子 (和光大学現代人間学部現代社会学科准教授)
2. 人口減少時代における〈移民〉と社会的排除
挽地 康彦 (和光大学現代人間学部現代社会学科専任講師)
3. ポスト総中流社会におけるナショナリズムのゆくえ
渋谷 望 (千葉大学文学部行動科学科准教授)

=討論=

- [討論者] 伊藤 るり (一橋大学大学院社会学研究科教授)
ユ・ヒョジョン (和光大学現代人間学部現代社会学科教授)

=ディスカッション=

- [司会] 井上 輝子 (和光大学現代人間学部現代社会学科教授)

シンポジウム
“格差社会”日本のゆくえ
家族・移民・ナショナリズムをめぐる言説から考える

10月13日(土) 13:30~17:30
会場：和光大学J#301
13:00~17:15

報告

1. 「格差論」の現在と家族・労働・福祉
岩間 暁子 (和光大学現代人間学部現代社会学科准教授)
2. 人口減少時代における〈移民〉と社会的排除
挽地 康彦 (和光大学現代人間学部現代社会学科専任講師)
3. ポスト総中流社会におけるナショナリズムのゆくえ
渋谷 望 (千葉大学文学部行動科学科准教授)

主催
現代人間学部現代社会学科
現代社会学科
現代社会学科専任講師
現代社会学科准教授

後援
町田市教育委員会
川崎市教育委員会

和光大学